



大樹のこころ

学校は支えられている

学校というところは、基本的には教職員と子供たちで生活する場です。ですから、校内での生活をより良くするために努力するのは、当然教師と子供たちになります。その反面、先生と子供だけでは、やりきれない活動も出てきます。それをPTAの一家庭一支援やおやじの会が助けてくださいます。

5月20日(土)には、一支援で「プール清掃」が行われました。昨年の8月に使用が終わったプール。水は汚れ、砂や埃、葉っぱなどが水底に沈殿しています。水泳部の活動と水泳の授業のために、5月にプール清掃が必要となります。本校では、そのプール清掃を水泳部の選手と一支援の保護者・おやじの会が協力する形で行っています。

土曜日にも関わらず、多くの保護者が支援に参加してくださいました。水が抜かれ、プールの底が見える状態で、清掃が始まります。水底は汚れがびっしり。大人と子供が一緒になって、デッキブラシでこすっていきます。すると、どんどん汚れが取れていきます。これが意外に楽しい。清掃はプール内だけでなく、プールサイドの汚れ落としや、更衣室の整理整頓にまで及びます。作業量はかなりあるのですが、大人数で行うので能率的。見る見るプールが美しくなっていました。この日は5月にしては気温が高かったのですが、水を使っただけの作業は、快適だったのではないのでしょうか。

5月22日(月)には、「挨拶運動」が行われました。現在本校では、子供たちの生活力を伸ばすために「家康プロジェクト」が実施されています。プロジェクトの中でも最も大切なことは挨拶ができるようになることです。昨年度、本校に赴任した時に、真っ先に取り組んだのが「挨拶革命」でした。1年間かけての取組の結果、子供たちの挨拶は見違えるようになりました。その要因の一つとしてPTAによる「挨拶運動」があると考えています。この日も、朝早くから保護者の方が来校し、温かな笑顔で登校する子供たちを迎えてくださいました。嬉しそうに挨拶をする子供たちを見て、改めて保護者の皆様へ感謝する気持ちが芽生えてきました。

「子供たちのために」と協力を惜しまないPTAの一家庭一支援活動やおやじの会。これらに支えられ、学校は存立できています。この場を借りてお礼申し上げます。



プールの清掃に参加してくださった保護者と子供たち

